

「長期的な基礎研究プロジェクト」の2年目の取り組み

コミュニティ人間科学部附置コミュニティ活動研究所は、2019年4月の学部開設と同時に開所してから5年が経ちました。

本研究所は、コミュニティ人間科学部において教育、研究、社会貢献に取り組んだり成果を発信したりして、その取り組みや成果をもってお互いに切磋琢磨し合うことで、学部にも所属する教員と学生が社会的役割を果たすための共通の場を提供することを目的としています。昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、研究所独自の教育研究プロジェクトや、いずれかのコミュニティとの連携による教育研究プロジェクトに本格的に取り組むことはできませんでした。しかし、その間にも、2021年度には「コミュニティ活動研究」の学術的基盤形成を目的として「長期的な基礎研究プロジェクト」（以下、「長期プロジェクト」）を設ける提案をいたしました。

2023年5月に新型コロナウイルスが5類に分類されることになり、従来の日常生活をだいぶ取り戻してきた状況で、2023年度には、「長期プロジェクト」の一環で、2つの活動に取り組みました。一つは、「コミュニティ活動研究所プロジェクト」の公募を行って、1件の応募を受け付け、採択して取り組み始めた活動です。この活動は、黒岩副所長が昨年度から準備に取り組んできていたもので、2023年9月に「那須英語セミナー」を実施しました。「那須英語セミナー」は2年間のプロジェクトですが、所報に中間報告をまとめていただきました。なお、「那須英語セミナー」は、「長期プロジェクト」としては遠心的研究活動に位置づきます。

もう一つは、求心的研究活動として、昨年度行った、学部の必修科目である「地域社会調査法入門」の成果と課題を検討する座談会を受けて、「地域社会調査法入門」の課題を解決していくために、どんなところに留意して見直していけばよいかを、地域を対象とした他大学・学部の方法論の授業科目と比較しながら検討しました。

その他に、例年どおり、地域実習先の講演の報告もまとめていますが、1年目から4年にわたって行ってきた「コミュニティ人間科学部学生の地域体験と知識に関するアンケート」は、いったんその役割を終えることにしました。今後は違うかたちで学生の状況を把握していきたいと考えています。

「コミュニティ活動研究」の学術的基盤を形成していくにはまだまだ未熟ではありますが、「長期プロジェクト」の2年目の成果として、ここにその活動の報告をいたします。

2024年3月
コミュニティ活動研究所長 西 島 央